

編集後記

『日中語彙研究』第8号をお届けする。今号は『中日大辞典』発刊50周年を記念する講演会の記録と、特集「サマーズの漢語研究」を掲載し、名実ともに充実したものとなった。

〈講演〉には、今泉潤太郎先生の「編者から見る『中日大辞典』」、顧明耀先生の「中国人の目で見えた『中日大辞典』」、齊藤正高氏の「『中日大辞典』データベースの機能」を収録する。『中日大辞典』の歴史、現在そしてこれからのを考えるうえで示唆的な内容である。〈特集論文〉には、本学塩山正純先生のご尽力により「サマーズの漢語研究」に関する研究論文5篇を掲載することができた。朱鳳氏の「萨默斯及其他欧洲汉学家对“六书”的观察—以19世纪的汉语学习教材为资料—」では、サマーズら5人のヨーロッパの漢学者たちが編集した5冊の中国語学習教材を資料に「六書」に関する記述と観察を考察する。伊伏啓子氏の「萨默斯的汉语研究—以名词为中心—」では、サマーズがロンドン大学で教鞭を執っている間に執筆した中国語教科書における名詞の分類と説明に焦点を当てる。奥村佳代子氏の「萨默斯的汉语研究—关于萨默斯1863以前的代词和人物称呼—」では、サマーズ以前の西洋人による中国語文法書における代名詞と人物呼称の描写の仕方を俯瞰する。千葉謙悟氏の「萨默斯《汉语手册》动词分析中的语气和时态—兼论十九世纪英国汉语教学及其实用性—」では、サマーズの文法書における動詞のムードとテンスについての解説を論ずる。塩山正純氏の「关于萨默斯对汉语副词的分析—管窥19世纪上半叶西洋学者汉语词类认识进程—」は、サマーズの著した中国語教科書およびそれ以前の西洋人による中国語教科書にみる「副詞」の分析と理解についての考察を通して、それら副詞研究の過程にみられる傾向を見出している。この特集によって、読者は18世紀から19世紀にかけてのサマーズをはじめとする西洋人の中国語観を複眼的、全面的に見ることができよう。〈論文〉の牛彬氏による「基于口语语料的“拜托”新用法分析」は、本来依頼表現であった“拜托”が否定や忠告の意味を表すという新たな用法を語用論的視点から考察する。今泉潤太郎先生の〈辞典史〉「資料による中日大辞典編纂所の歴史6」は創刊号からの連載である。長期にわたるご執筆に感謝しあげる。〈新語録〉の趙蔚青氏と〈動向〉の施暉氏から寄せていただく最新の研究情報も重宝する資料であり、毎号の楽しみとなっている。

このように充実した内容でお届けできたのもひとえにご執筆くださった先生方のお蔭である。これからもさらによいものを目指したい。どうか皆様のお力添えを賜りたい。

(編集委員会)

『日中語彙研究』第8号

2019年3月30日発行

編集・発行 愛知大学中日大辞典編纂所

名古屋市中村区平池町4-60-6 〒453-8777

Tel. 052-564-6122 Fax. 052-564-6222

<http://leo.aichi-u.ac.jp/~jiten/>

組版 株式会社あるむ
